



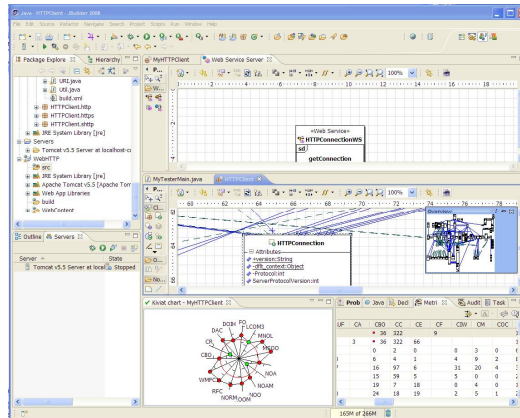
Embarcadero® JBuilder® 2008 R2 は、主要な Java EE 5 アプリケーションサーバーに対応した革新的なエンタープライズ Java 開発環境です。JBuilder 2008 R2 には、Java アプリケーションの品質・パフォーマンスを向上させる強力な支援機能が搭載されています。さらに、UML モデリング機能やチーム開発、コラボレーション機能を搭載し、開発チーム全体の生産性向上をサポート。強力なビジュアル設計機能が、効率的な Java アプリケーションの開発を実現します。

- コードの品質とパフォーマンスを向上
- 新規開発だけでなく既存のコードもビジュアル化して改善可能
- 開発者個人とチームの生産性を向上
- 開発者のナレッジやコードの再利用を促進

コードの品質とパフォーマンスを向上

JBuilder 2008 R2 は、コードの静的分析と動的分析の双方をサポートしています。高度なコード測定機能により、開発者は容易にコード構造の品質や複雑性を把握でき、潜在的な問題点をすばやく特定できます。コード検査機能を用いれば、作成したコードが、所定のコーディング規約、ガイドライン、仕様

に合致しているかをチェックできます。また、コードの最適化にあたっては、JBuilder 2008 R2 は、強力なパフォーマンス分析ツールを提供。Java EE アプリケーションのパフォーマンスボトルネックを詳細にドリルダウンして分析できます。



新規開発だけでなく既存のコードもビジュアル化して改善可能

JBuilder 2008 R2 は Java UML 2.0 モデリング機能を搭載しており、シーケンス図、ユースケース図、アクティビティ図、クラス図、コンポーネント図、配布図、ステートマシン図、コンポジット構造図、コミュニケーション図、Web サービス図などの作成やドキュメントの生成をサポートしています。さらに、LiveSource テクノロジーによって、UML モデルとコードの双方向リアルタイム同期を実現。コードをビジュアル化し、開発効率を向上させます。

開発者個人とチームの生産性を向上

JBuilder 2008 R2 では、TeamInsight™によって、コード、プロジェクト、チームの管理をサポートします。開発者は、バグ、変更要求、コメント、タスク、要件などをプロジェクトの役割ごとのビューでリアルタイムに確認可能。また、ProjectAssist™によって、プロジェクトごとに必要となる、これらのコラボレーション機能のインストール、設定を一度に実行できます。開発者は、さらに UML モデリングや EJB デザイナ/ Web サービスデザイナなどによりコードを可視化し、個人レベルからチームレベルまで広範囲に生産性向上を実現できます。

開発者のナレッジやコードの再利用を促進

「アプリケーションファクトリー」は、新しいアプリケーション指向の開発モデルを導入します。アプリケーションの構造や関連するロジック、ノウハウなどは、ソースコードとともにバージョン管理ツールにチェックインされるので、開発者は、単にコード断片を再利用するだけでなく、関連するナレッジやメタデータなどを、新しいプロジェクト用に活用することができます。これまでコピー&ペーストに留まっていたコードの再利用を、チームのナレッジの再利用という高いレベルにまで引き上げることができます。

関連製品

Embarcadero® DB Optimizer™

パフォーマンスボトルネックとなる SQL をすばやく発見、診断、最適化することで、データベースとアプリケーションのパフォーマンス最大化を支援

JBuilder®

Java 開発の多様なフレームワーク環境におけるコードの再利用性を強化する革新的機能を搭載した新世代の Java 開発環境。パフォーマンスチューニングツール、UML モデリング機能、チーム開発機能などを搭載

Embarcadero® All-Access™

従来のツール導入のスタイルを大きく変革する強力な製品ソリューション。定評あるエンバカデロのマルチプラットフォーム製品群にオンデマンドでアクセス可能

機能	説明
JBuilder 2008 R2	
パフォーマンス分析ツール	メモリおよび CPU プロファイル機能により、パフォーマンス問題をすばやく特定し、改善可能
Thread Debugger	JVM (Java Virtual Machine) 内で実行されるすべてのスレッドの状態をリアルタイムモニタ可能。待ち状態、ロック、潜在的なデッドロックの可能性を未然に検知
Request Analyzer	JDBC、RMI、JSP、JNDI、EJB、JMS、Web サービスプロトコルコンテナなどの Java EE コンポーネントのパフォーマンスをプロファイル可能
コード検査・測定	90 以上のソフトウェア測定項目と 200 以上のコード検査項目によって、開発者はオブジェクト設計、コードの複雑性、オブジェクト間の結合性、テストカバレッジなどさまざまな品質上の問題点を特定
TeamInsight™	統一されたプロジェクトビューにより、分散したチームでもコラボレーションを改善可能。バグ、変更要求、コードノート、タスク、要件などを役割ごとのビューで確認可能
ProjectAssist™	バグトラッキング、ソースコード管理、プロジェクト計画/トラッキング、要件管理、継続的なビルド作業などの管理ツールのシングルポイントインストール/設定を可能にし、プロジェクトごとに必要となる手動での設定や連携の手間を軽減
Swing デザイナ	Java Swing アプリケーションをすばやく構築できるユーザーインターフェイス設計ツールを搭載。2Way 開発のサポートにより、コードとビジュアル設計画面は 100%同期
UML モデリング	コードとモデル図の双方向編集が可能な LiveSource 機能を搭載した、UML 1.4 および 2.0 準拠のモデリング機能によりアプリケーション構造の理解とコミュニケーションを促進
EJB/JPA モデラー	EJB アプリケーションをビジュアルモデリング手法で開発。JPA に対応した Java モデリングプロジェクトも作成可能
Web サービスデザイナ	Axis ベースの Web サービス対応アプリケーションを開発できるビジュアル 2Way デザイナ
アプリケーションファクトリー	アプリケーション指向の開発パラダイムにより、アプリケーションコードとともに構造や関連するロジック、ノウハウなどをキャプチャーし、再利用可能

※ JBuilder 2008 R2 のユーザーインターフェイスならびにドキュメントは英語です。

製品エディション

JBuilder® 2008 R2 Turbo

JBuilder Turbo は、基本的な Java 開発機能を搭載した検証済みの Eclipse 環境で、無償でご利用いただけます。JBuilder のエントリーエディションとしてご利用ください。

JBuilder® 2008 R2 Professional

Java EE 5 および Web サービス開発機能を搭載し、本格的な開発に対応したエディション。コードプロファイリング機能や Swing デザイナ、基本的な UML モデリング機能などを利用できます。

JBuilder® 2008 R2 Enterprise

フル機能の Java IDE。コードプロファイリングやコード検査・測定機能に加え、UML モデリングの全機能、アプリケーションファクトリー機能、チーム開発・コラボレーション機能などが搭載されています。

動作環境

- JBuilder 2008 Enterprise : 1 GB 以上のメモリ (1.5 GB 以上を推奨)
- JBuilder 2008 Professional : 512 MB 以上のメモリ (768 MB 以上を推奨)
- 700 MB ~1.2 GB のハードディスク容量
(必要な容量はエディションにより異なります)
- Intel Pentium 4/2.4 MHz 以上 (またはその互換機)
- DVD-ROM ドライブ (DVD からインストールする場合)
- 高解像度モニタ (1024×768 以上)
- Microsoft Windows XP SP3、Microsoft Windows Vista Update 1、
Mac OS X (10.5)、Red Hat Enterprise Linux 5、
Red Hat Enterprise Linux 4 (BES および InterBase 2009 のサポートのみ)
- Windows XP または Windows 2003 Server
(ProjectAssist のインストールおよび管理用)